

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	保健体育
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>[体育]</p> <p>○生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成に向けて、主体的に学習に取り組み、基礎的な知識及び技能の習得や、それらを活用して課題を解決するための思考力,判断力,表現力等の育成を重視した学習・指導方法と評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>[保健]</p> <p>○個人及び社会生活における健康に関心を持ち、健康課題を発見するとともに、課題の解決に役立つ知識の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力,判断力,表現力等の育成を重視した学習指導と評価の研究</p> <p>(1) 現代社会と健康 オ 応急手当</p>				
ふりがな 学校名 (生徒数)	み え け ん り つ い の う こ う と う が つ こ う 三重県立稲生高等学校 (687人)				
所在地 (電話番号)	〒510-0201 三重県鈴鹿市稲生町 8232-1 (059-368-3900)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.ino-hs.ed.jp				
研究のキーワード	学習のめあて, 主体的な学び, 対話的な学び, 深い学び				
研究結果のポイント	<p>○ アンケートにより授業改善の課題を明確にできた。</p> <p>○ 学習指導要領 (平成 30 年 3 月改訂) の理解を深め, 指導計画, 評価規準を見直すことができた。</p> <p>○ 仲間の取組について助言する姿や, 仲間から助言されたことをもとに思考を深め, 課題解決に取り組もうとする姿が見られるようになった。</p>				

1 研究主題等

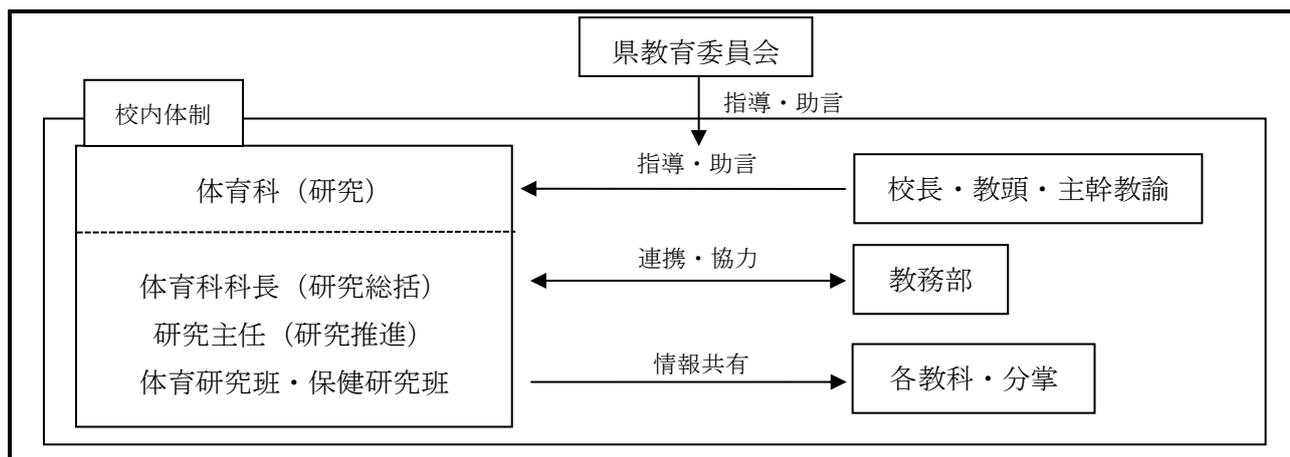
(1) 研究主題

生徒自らが進んで学習に取り組み, 習得した知識及び技能を活用するとともに仲間との対話を大切にしながら課題解決を図り, 思考力, 判断力, 表現力等を育成する学習・指導方法の工夫改善についての研究。

(2) 研究主題設定の理由

本校の生徒は, 授業において教師が指示したことに対して取り組むことができるが, 自らの課題を捉え, 主体的に課題解決に取り組むことが苦手な生徒や, 健康や運動に対する意識が低い生徒がみられる。そこで, 生徒が主体的に学習に取り組み, 仲間との対話を大切にしながら課題解決を図ることができる指導方法の工夫改善をし, 思考力, 判断力, 表現力等を育成できる授業づくりをしたいと考え, この研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成 30 年 度	4月	アンケートによる実態把握と課題検討 学習指導要領の理解と研究の方向性についての検討
	4月～11月	単元構造図の作成とそれに基づく授業実践
	9月～10月	研究指定事業校視察 (長崎県大村工業高校、福岡県香椎高校、北海道立美唄尚栄高校)
	10月	三重県保健体育研究大会で発表及び協議
	11月	アンケートによる実態把握
	12月～3月	今年度の検証及び次年度へ向けての課題の検討

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

○アンケートによる生徒の実態把握

- ・年度初めに「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(スポーツ庁)を基にしたアンケートを行い、11月に再度アンケートを行いその変化をみる。

○学習指導要領の理解

- ・保健体育科教員で、学習指導要領の趣旨や内容についての理解を深める。

○思考力、判断力、表現力等を育成するための指導方法の改善

- ・自己や仲間の課題を掴む段階の指導方法の改善。
- ・合理的・計画的な解決の実現に向けた指導方法の改善。
- ・表現力等に関する指導方法の改善。

(2) 具体的な研究活動

■科目「体育」

○アンケートによる生徒の実態把握

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(スポーツ庁)を基にしたアンケートを実施。1回目は平成30年4月に、2回目は11月にそれぞれ対象生徒に対して行った。

アンケートの結果、「授業が楽しい」と回答した生徒と、「授業が楽しくない」と回答した生徒を比較して、30ポイント以上開きがあった項目は「授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)が示

されていますか」「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか」「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか」「授業で学習している内容は、あなたの将来に役に立つと思いますか」であった。

そこで、生徒がめあてを理解した上で主体的に学習に取り組めるように「授業の始めに授業の目標（めあて・ねらい）を示す」、習得した知識及び技能を活用するとともに仲間との対話を大切にしながら課題解決を図ることのできるように「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行う」、「友達同士やチームの中で話し合う活動を行う」ことを授業改善のポイントとした。

○学習指導要領の理解

学習指導要領の趣旨を実現するための保健体育科会を実施した。また、単元構造図を作成し、指導計画と評価規準の見直しに取り組んだ。

○思考力、判断力、表現力等を育成するための指導方法の改善

- ・タブレットなどの ICT 機器を活用した運動観察や、学習カードを活用して自己の動きを焦点化して図示し、仲間や見本の動きと比較して課題を明確化する工夫。
- ・出てきた課題に対して、課題解決に必要な補助運動や部分練習を思考・判断するための学習カードを作成し、それをもとに繰り返し練習できるようにする工夫。
- ・各グループでホワイトボードを活用し、個々の課題や課題解決の方法を示し、共有する工夫。
- ・ICT 機器を活用し、課題把握からその解決方法までをまとめ、他者に分かりやすく伝えるための工夫。

■科目「保健」（2）安全な社会生活 イ 応急手当

○アンケートによる生徒の実態把握

生徒の実態を踏まえ、「授業のめあての明確化」「協力して課題解決をするための活動の設定」をポイントとし、目標の具体化・明確化を図り指導と評価の一体化を図ることを、授業改善のポイントとした。

○学習指導要領の理解

学習指導要領の趣旨を指導につなげていくための勉強会を実施し、指導計画や評価規準の見直しに取り組んだ。

○思考力、判断力、表現力等を育成するための指導方法の改善。

- ・学習課題等に応じた多様な授業形態（全体指導、実習、ロールプレイ、ブレインストーミング、kj 法、調べ学習等）を実践し、目的に応じた手法の工夫。
- ・ICT 機器を活用し、自己の課題を発見したり、得た情報を整理し、思考・判断したことを他者にわかりやすく伝えられるようにする工夫。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

科目「体育」

○図や ICT 機器を活用して運動観察したことにより、自己や仲間の課題の発見と成果の把握が効果的にできた。

○課題や解決方法を書き出すことで、仲間の課題を理解することができ、解決方法を生徒同士で思考・判断して教え合う姿が多く見られた。

※アンケート結果（1回目 4月→2回目 11月）

- ・「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか」（72.9%→90.1%）



- 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する際に、手法を固定した場面もあり、生徒の主体的な活動を制限していた場面があった。
- 学習カードが活用できていない生徒や、効果的な課題解決の方法を導き出せていない生徒に対するアプローチが不足していた。

科目「保健」

- 多様な授業形態（全体指導、実習、ロールプレイ、ブレインストーミング、k,j法、調べ学習等）を実践することで、生徒が主体的に取り組み、思考が広がっていく様子や、他者に伝えようとする姿がみられた。
- 評価規準を見直したことで、授業の目標（ねらい）を明確にすることができ、生徒が主体的に取り組む姿がみられた。



※アンケート結果（1回目4月→2回目11月）

- ・「友達と話し合う活動を行っていますか」（66.3%→87.2%）
- ・「友達と協力して課題を解決するような活動を行っていますか」（83.8%→88.5%）
- ICT機器の活用では、心停止の場面でAEDが使用される確率を調べたり、なぜAEDが使用されないことがあるのか考え、それを調べて確認するなどの取組を通して、自分たちだけでなく、みんなが使用できるようになることが社会全体の課題だということを理解する姿が見られた。
- 指導の手法を固定しすぎた場面もあり、生徒の自由な発想を引き出せなかったり、主体的な活動を制限していた場面があった。
- ICT機器を活用して調べる際の、事前指導が不徹底であった。（引用元など）

4 今後の取組

授業の目標（ねらい）や、一人一人の役割を明確にしたことで、従来の授業と比較して、授業中生徒同士が話し合う姿が多く見られた。

一方で、指導者が説明をしすぎたり、生徒の役割を明確に指示しすぎたりしたことで、生徒が主体的に思考し判断する場面を制限しているのではないかと指摘や、効果的な課題解決の方法を導き出せない生徒もいた。

次年度は、学習カードの問い方や発問の工夫すること、中学校で学習してきたことや高校で前年度学習したことの理解度を把握し実態に合わせて指導すること、そして、課題解決ができていない生徒へのアプローチを確実に行うことを通じて、生徒の思考を促す場面、多様な形で話し合う場面、自己の理解を深める場面等を大切にしながら課題の解決を図る授業改善を行いたい。

今年度の体育の実践では、「体の動かし方や運動の行い方に関する思考力、判断力、表現力等」に重点を置きすぎた感があった。次年度は、「体力や健康・安全」「運動実践につながる態度」「生涯スポーツの設計」に関する思考力、判断力、表現力等についてもバランスよく指導し、「する・みる・支える・知る」などの運動やスポーツの多様な関わり方につながるよう指導していきたい。

保健では、授業で身に付けた知識及び技能を活用する場面を大切にしながら、主体的、対話的で深い学びを通して、生徒に思考力、判断力、表現力等を身に付けさせる授業づくりを行いたい。

今回の研究をきっかけに、生徒の姿だけでなく教員の意識が大きく変化したと感じている。次年度は、教科全体の共通理解のもと、評価規準と3年間の年間指導計画を見直し、系統的、体系的な指導が行えるよう研究を推進していきたい。また、取組を学校全体や県内に発信していきたい。